

6 組担任 紺野 清子

早いもので、私が幼稚園教諭になって 1 年半が経ちました。1 年目には「あんなことやりたい!!」と思ったことを積極的に取り入れ、とにかく何でも挑戦してきました。今でもその気持ちは変わりませんが、成功しても、例えハチャメチャになったとしても、子ども達も私自身も心から楽しめる活動を心がけています。

今、私のクラスでは『作って遊ぼう!!』ということで廃品などを利用し、いろいろなおもちゃを作っています。子ども達は初めは「難しそうで出来な～い」と、それも得意げに言いますが、いざやり始めると真剣な眼差しで取り組み、出来たときには「どうだ」とばかりに作品を手に見せています。そんな子ども達の姿や満面の笑顔を看ていると、「あーこの活動をやって良かったな～」と思います。

これからも、子どもの笑顔をたくさん見ることができるよう、いろいろなことにチャレンジし、楽しい時間を過ごしたいなと思います。

「子供の幸せって何なのでしょう？」

4 組 信濃 卓郎

人口 120 人、小学校への就学年齢人口 20 人、うち小学校へ実際に行った事のある子は 6 割、6 年間過せるのはその半分。中学校に至っては 1 人いれぱいいほう。私が今働いている中国のとある村の現況です。年収は 5 千円、そのほとんどを男手が出稼ぎで稼いでいます。小学校は義務教育といっても年間 3 千円程度かかり、そんな余裕がある家はなかなかありません。斜度が 25 度を越すような極端な斜面地でトウモロコシを一面に植えています。毎日一家で 30kg もの木枝などの燃える物を集めなければならず、それが子供達の仕事です。電気はなく、夜は石油ランプ。水道もなく、お風呂は一度も入ったことがありません。そんなところに 500 年以上も人々が暮らしてきたそうです。

でも、次第に変わりつつあります。出稼ぎに行けば外の社会に触れるわけで、そこには色々

な商品が出回ってます。ウタダヒカルのテープまで売っています。研究と称して外国人がうろつき回るようになりました。私が現地に行きだしてもうすぐ 3 年、目に見える形で急速に変化しています。それが良いのか悪いのか、正直言って分かりません。まだまだ中国は街が汚いし、トイレに至っては激しい物があります。でも、日本に帰ってくると、周りの人たちのバタバタとした感じや、男も女もケバケバしているし、なによりも食事がおいしくありません。原因は間違いなく素材の味で、無駄な肉が殆どない現地の鶏を一度食べたなら、ブロイラーなんかまるで味のないゴムです。

人の幸せって何なのでしょう？子供の幸せって何なのでしょう？自分達も昔は子供だったくせに、どうすれば子供を幸せにしてあげられるのか分かりません。小学校にも行けない子供達と、いじめや援交がまかり通る世界に生きている子供達とどっちがいいのですかね。

でも、日本の子供達もまだ捨てた物ではなさそうです。おやじクラブの活動を通して幼稚園の子供たちと接してきて、一番の思い出は..田植え大会で稲の種のことを説明していた時に、興味津々でキラキラ輝く子供達の目に出会ったことです。あの時のぞくっとするほどの快感は今でも思い出します。あんなに素敵な顔が出来るのだったら、まだまだ大丈夫でしょう。確かにそんな目は今の仕事場で見たことはありませんが、何とかそんな気持ちを忘れずに育ってもらいたいものです。

「男って必要なの？」毎日新聞「おーい父親」

フランス 40%、デンマーク 50%、スウェーデン 60%、日本 1%...これは未婚や非婚（同棲）で子どもを産む女性の割合。ヨーロッパでは旧来の結婚という制度を拒否して自由な結びつきを模索している人々が急激に増えている。

古い考えの持ち主は「そんなことをするから世の中が乱れる」と思うだろうが、これらの国々のモラル・秩序が乱れ混乱しているという話は聞かない。むしろこれらの国々は子どもを育てるのが楽な国として知られているのだ。

考えてみると、世の中は少しずつ男性中心の制度を解体してきている。今や女性は男性と同じように働き、家事をこなし、男性本位の結婚や家制度を不要のものとしている。

要するに、男なんていなくても大丈夫！という方向に急速に進んでおり、そのうち男は種馬程度の用しかない存在になりかねない。

今のうちに虚勢を張ったり、暴力を働いたりしない形で存在意義を訴えなければ、男性は本来に必要な存在に成り下がってしまう。

歴史の流れを見ると、女性は一貫して前向きに生きてきた。仕事でも有能で、入社試験で女性が上位を独占していることが希ではない。そんな中で女性に仕事と育児と家事の三立を望むのは無理。かといって「仕事を辞めて家に戻れ」と懇願する男を女性は既に見捨てている。

仕事も育児も家事もうまく分担して、双方が無理なく生きていくことが必要なのだ。そのためにも、男性がこれまで女性がしていた仕事や生活の分野に参入し、相互乗り入れを社会的に進める以外にないのではないか。その決意を男性が固めないとい子どもを産まない女性はもっと増える。それでいいのか男性諸君。

おやじクラブ 10 周年記念講演会・祝賀会

10 月 14 日（土）にススキノグリーンホテル 2 でおやじクラブの設立 10 周年を記念して講演会・祝賀会が開かれました。

講演会では、おやじクラブ OB の紹介で北海道人としてはじめてヨットでの世界一周に成功し、7 月 16 日に帰港したばかりの「シーガル号」艇長野村輝之氏にご講演頂きました。

祝賀パーティーには、平和幼稚園の先生、おやじクラブ現役・OB 併せて 57 名が出席、10 年間のおやじクラブの活動を振り返りました。

《シーガル号艇長野村輝之氏講演要旨》

中学の修学旅行で釧路から太平洋の彼方のアメリカに思いをはせたのがきっかけ。船員を志望するも親の反対で断念するが、海への思い止まず、5m 級のヨットで帆走技術を独学。世界 1 周用のヨットを物色するが既製品は高価なため自作に取りかかる。とは言え、世界 1 周用となると全長 11m の鉄筋コンクリート製、積雪期のある北海道では無理で、神奈川に土地を借り、月～金は仕事、金の最終便で神奈川へ、土日に作って日曜の最終で札幌への生活を 5 年続けて完成。84 年から妻、長女 10 才、長男 4 才を引き連れ世界 1 周に挑戦。途中、資金難からプエルトリコで大工や剣道の先生、カジノの通訳をして資金調達。アルゼンチンでは船の修理に時

間を要したため子どもを学校に通わせるが、ここでは「子どもの好きなことをさせるのが一番」と何もやらず教科書もない。ヨットを補修後ブラジルに向かう途中に座礁し、1 回目の挑戦を断念。帰国しレストランを経営するなどしながら準備を進め、ヨット仲間を集め、97 年に再度世界 1 周に挑戦、4 年がかりで成し遂げた。

《「艇長のバイタリティは圧巻」...by おやじ A》

僕もかつてクルーザークラスのヨットレースをやっており、「ヨットで世界を回りたい」と夢を描いていた時期がありました。しかし、子供が産まれてからは、ヨットからすっかり足を洗い、ハーバーにも近づかなくなりました。でもそれは夢を諦めたのではなく、家族と過ごす事をあえて選んだためです。

船を降りる時には...「夢はいつか叶えられる時が来る。時期は関係ない」「我が子も小学校高学年位になると、親と過ごすより友達の方が遙かに楽しくなる。いずれ離れていく日が来るのなら、今一緒に過ごせる時間を大切にしよう」「カミさんと子供をおいて、一人で遊び歩くのは後ろめたい」...そんなことを考えたのを思い出しました。

野村さんの真似をすることは出来ませんが、世の中、頭で色々と考えて、リスクを負わず生きている人間が多い中、実際に行動に移せるバイタリティと行動力は見習いたいものです。

11 月 25・26 日にお・クワ 同好会行事として観楓会が開かれます。（於定山溪）

昨年の観楓会の様子を紹介しますと...ビール呑む・日本酒呑む・焼酎呑む・先に寝た人にいたずら書きする・またビール呑む・育児について話す・男親の悩みを話す・また酒呑む...

野村氏は、航海中の教育用に教科書一式を持って行き、船上で教えていたそうです。日本に帰国後、やはり多少の学力のギャップはあったそうですが、「そんなことは、その後の子供達の人生になにも問題になってない」とあっさり。テストの点に一喜一憂してないで、親の生きる姿を見せなさいということでしょうか

担当：なみかわ

E-mail : namikawa@mpd.biglobe.ne.jp